

他者との関わりを深める道徳授業～イメージや思い込みからの脱却～

京都府 京都市立西京高等学校附属中学校 教諭 久保 泰雄

中学校 道徳 昔話法廷

番組の特徴

昔話法廷は、なじみ深い昔話の登場人物を裁判にかける、これまでになかった法廷ドラマシリーズ。この番組の特徴は、裁判員裁判を最後まで判決が出ないこと。判決は、児童・生徒にゆだねられ、個人やグループで協議することができる。

研究の概要

これまで昔話のストーリーについて、多くの児童や生徒は疑問を抱くことはほとんど無かったと思う。しかし、本番組を活用することで、あたり前とってきたことであっても、矛盾や疑問点を持つことで、固定概念やイメージに左右されることなく、自分自身の考えを導くことができる力を養われた。また、本授業で学んだことを、実際の生活にも関連付け、行動できるようになった。

主題名：他者と関わるために (2- (3))

ねらい：裁判員裁判を通して、友情の尊さを理解して互いに励まし合い、高め合う心を育成する。

導入

「自分にとってライバルだと思う人」について考える。(部活動の仲間やクラスの友達についての発言が予想)

課題把握

「裁判員裁判」を通して相手のことを考えよう

番組視聴

第3話 白雪姫裁判

自力解決

番組が始まると、証人尋問や被告人質問のそれぞれの証言や証拠について重要度を考え、ワークシートにメモをとる。それらをまとめ、有罪か無罪かと判決理由をワークシートに記入する。

協働解決

デジタルペンを利用し、生徒が書いた内容を電子黒板に映し出し、意見交流を行う。判決は、タブレットを利用して瞬時に集計し、学級での有罪・無罪を確定する。

まとめ

本授業で考えたことを、学校生活にも関連付けて発問し、良きライバルである関係を築く。

番組や関連動画クリップの活用意図

多様な見方をするための番組視聴

身近な昔話の人物を多面的に見ることで、柔軟にものごとを考えて、場面に応じた思考を促すことができる。裁判員裁判という形式で生徒の意欲を高め、課題意識を持ち、様々な情報が重要であることを認識しながら学習を組み立てていくことで、児童の思考を活性化できる。

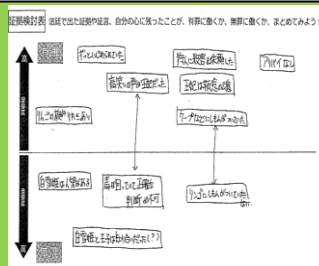
授業デザインにかかわる教師の工夫

ICT (タブレットPCとデジタルペン) の活用

タブレットPCとデジタルペンを利用することで、書いた内容が瞬時に電子黒板と教師用のタブレットに映し出されるので、考えをみんなで共有することができる。多くの生徒の意見を共有する時に、大変有効であった。生徒は様々な思考にふれ、多面的な見方ができるようにすることができた。

授業だけではなく、実際の学校生活と関連付ける

今回は、白雪姫を題材にした裁判ではあるが、王妃は白雪姫に対してライバル心を抱いていた。この気持ちが違った方向に行くことで状況は大きく変わってしまう。番組の学習だけに終わるのではなく、日常生活にもどり、クラスでも部活でも、もし、自分が苦手な相手であっても、しっかりお互いを理解し、いろんなことで関わり合いながら、お互い高め合えることができる、良きライバルになることにつながるようにすることが大事である。



生き生きと学ぶ子どもの姿

ワークシートに証言や証拠をもとに重要度を考えメモをとる姿

●裁判では、証人尋問や被告人質問において、次々と証言や証拠が提示される。それらを重要度を考えながらメモをとり総合的に判断して有罪・無罪を決定するが、最後まで真剣に悩んでいた。

子どもの自己評価 (振り返り) から

- 今回の授業で、確実な証拠がない中で、有罪か無罪を考えるのはとても難しかった。イメージで決めつけてはいけない。
- 人を裁くということは、難しいことだと実感でき、自分が出した結果で、相手の未来を変えてしまうと思うと、本当に裁判は慎重にやるべきものなのだったと思った。

同僚の評価

●普段の道徳の授業とは違い、タブレットPCやデジタルペンと放送教育番組を活用することで、より多くの学びができた。

実践を終えて〈行動宣言〉

今回の授業では、授業の始めに「ライバル」について考えたあと、番組を視聴した。証拠や証言をまとめ、判決を出すだけではなく、人を裁くことの難しさを学ぶことができたと思う。今後、番組内容を身近な「ライバル」と捉え、学校生活においてのライバルが自分にとって苦手な相手だった場合、自分の独りよがりの考えで相手を見るのではなく、様々な見方をしていくことが必要であることを日常的に訴えていくことで「いじめ」に対応できる。